

部 会 報 告

加藤製作所(株) 群馬工場見学会 報告

機械部会 基礎工事用機械技術委員会

1. はじめに

JCMA 機械部会の基礎工事用機械技術委員会では、年間行事として現場見学、工場見学を実施している。令和元年10月25日(金)に(株)加藤製作所様の群馬工場を、委員・事務局含め総勢16名にて訪問させていただいたので、その内容について報告する。



写真一 見学会参加者(工場ロビーにて)



写真二 群馬工場全景

外部に委託しており、群馬工場の生産設備では主に各製品の組立が行われている。

生産方式や組立ラインのレイアウトは各製品に合わせて最適な方法が採用されており、組立作業の効率化が図られていた。

2. (株)加藤製作所 群馬工場について

(1) 工場概要

(株)加藤製作所 群馬工場は、1980年に操業を開始。群馬県内でも多くの製造業が集まる太田市において、約40年の歴史を重ねてきた。2019年9月には、それまで同社の横浜工場で生産していた製品のすべてを群馬工場に集約したことで、同社のほぼ全製品を一貫体制で生産する工場となった。

従業員数は約400名、工場敷地面積は215,365 m²、横浜工場からの移転に伴い建屋の増設を行い、工場延床面積は62,817 m²となった。

敷地内には生産設備の他に、クレーン車両用の走行テストコースや、油圧ショベルの開発テストヤードもあり、製品の開発・生産・試験を総合的に行える環境であった。

(2) 組立設備

群馬工場で生産している主な製品は、ラフテレーンクレーン、クローラクレーン、油圧ショベル、クローラキャリア、アースドリルである。

クレーンの一部部品を除き、基本的に部品の生産は

(3) 溶接構造物生産設備・機械加工設備

ラフテレーンクレーン、クローラクレーンに使用するブーム等、一部の溶接構造物については、群馬工場内で生産が行われていた。横浜工場からの移転に伴い、従来の群馬工場の設備に加えて新棟の建設を行い、生産量の増加への対応が図られていた。

なお、ここで生産された溶接構造物は、大型のクレーン生産を行う茨城工場にも供給されている。

機械加工設備では、東芝機械製の大型マシニングセンタを導入しており、200トンまでのクレーンのフレーム加工を群馬工場内で行っている。

(4) 塗装設備

製品の塗装については、クレーンについては納入先の顧客毎に色の指定があることが多いため組立完了後に行うが、油圧ショベルについては、部品単位であらかじめ塗装を行ったうえで組立する方式(組立前塗装)が採用されていた。

組立前塗装には、カチオン電着塗装を採用。横浜工場の移転に合わせて新規設備の導入を行ったことで、従来の群馬工場から約2倍の規模に増強され、塗装品質と生産能力の向上が図られていた。



写真—3 群馬工場で生産している主な製品



写真—4 大型マシニングセンタ



写真—5 塗装設備

3. おわりに

当日は、当委員会に関わりの深いラフテレーンクレーン、クローラクレーン、アースドリルをはじめ、油圧ショベル、クローラキャリアなど、多種多様な製品の製造現場を見学させていただき大変有意義な会とすることが出来た。

（株）加藤製作所様におかれては、横浜工場から群馬工場への移転が終わって間もなくご多用な時期であったと察するが、当委員会の見学を快く受け入れて頂いた。

関係者みなさまのご高配に心より厚く御礼申し上げます。

JCMA

【筆者紹介】

三田 恭弘（みた やすひろ）
日立建機㈱ 商品開発・建設システム事業部
開発設計センタ 主任技師
（一社）日本建設機械施工協会
機械部会 基礎工専用機械技術委員会 委員

